本願寺高岡教区
じゃくじんそ
若神組十三日講だより

令和４年３月13日発行

第９号

若神組十三日講
講長 藤井成正

早春の候、講員の皆様には、日頃より十三日講の活動に深いご理解とご協力を頂き、大変ありがとうございます。未だ終息をみないコロナ禍にあっても、明るく元気に講活動に取り組んで行きたいと思いますのでよろしくお願いいたします。

十三日講の『活動のご報告』

❖高岡会館報恩講法要　令和３年11月26日(金) 高岡会館
藤井講長、中嶋事務局長ほか10名が出席しました。

❖もち米進納・本山参拝　令和３年12月７日(火)・８日(水)
コロナ禍にて代表10名で参拝。十三日講は藤井講長が参加。高岡教区講社連盟から、1,260kgのもち米を進納。御影堂において、進納式が執り行われました。

新型コロナでも変わらぬ思い
「ご本山を支えたい」
「高岡教区講社連盟 ! 第44回もち米進納参拝」

❖12月講(終い講)　令和３年12月13日(月) 称名寺にて
光乗寺様の法話をお聴聞して、令和３年度の全事業が無事に終了いたしました。

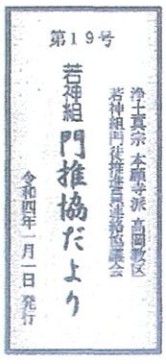
❖御正忌報恩講　令和４年２月14日(月) 井波別院
例年通りの参拝とはなりませんでしたが、18名が参拝し終了後に十三日講の今年初めての役員会を行いました。

布教使：安達秀憲師

井波別院：法話をお聴聞の様子

なお、残念ながら下記のお講は見送らせていただきました。
＊お初講　令和４年２月13日(日) 光福寺
お初講と同日に行われていました総会は３月講と同日に開催が決まっています。また、各地区の「お花講」や「綽如様」も日程等が変更になっています。「お知らせ」にご注意ください。

第19号 門推協だより から



若神組 寺院紹介

宝林山 称名寺（砺波市東開発）

最初に掲載されている
西蓮寺 考暁の字編に
紹介された歌です♫

年を取るってどんなこと
「ウサギとかめ」（もしもしかめよ）の替え歌
芹沢春江（92才）

一、年を取るってどんなこと
忘れっぽいって 言うけれど
一杯つまった知恵の箱出すのに
ちょっと迷うだけ

二、年を取るってどんなこと
耳は遠いし目も悪い
あらゆるものをキャッチして
私を育てた疲れです

三、年を取るってどんなこと
腰が曲がると 言うけれど
お世話になった人々に
感謝感謝の姿です

称名寺の開基は、井波瑞泉寺の古文書によると明徳元年(1390)と伝えられています。そのころ本願寺第五世綽如上人が越中の地に下向され、東般若村の権正寺あたりに在住されていました。当時渡し船を業としていた開発村の与蔵(大井家の先祖)の次男が上人より剃髪を受け、教証坊という法名と上人御染筆の親鸞聖人像を賜り、お堂を建立しました。その後、延宝四年(1676)六代目教順坊のときに「称名寺」の寺号を賜ったと伝えられています。称名寺があった開発村は庄川の扇状地にあり、たびたび水害に見舞われました。洪水を恐れて、称名寺は秋元村に移住しましたが、開発村には一寺もないことから、地区の人々の懇請によって、明治十二年(1879)に現在の地に戻りました。その後、明治三十四年(1901)に現在の本堂が建てられ、百数十年が経過しています。称名寺は東開発、下中条はもとより近隣の浄土真宗門徒の念仏道場として、地区の人々に親しまれ、支えられて現在に至っています。

称名寺 第十九世住職 大井祐成

第４回

2021年12月発表（主催・公益財団法人仏教伝道協会）

【輝け！お寺の掲示板大賞2021】

仏教伝道協会大賞　超覚寺（広島市）「仏の顔は何度でも」

「仏の顔も三度まで」ということわざが世間に定着していますが、仏様はその程度で腹を立てるような方ではありません。阿弥陀仏は無限の慈悲を備えていらっしゃいます。「仏の顔も三度まで」というより「仏の顔は何度でも」のほうが仏様の表現としては正確であることを知ってもらいたいということで今回大賞に選ばれたそうです。

こちらの掲示板もいかがですか？
以前ご紹介しましたネ
お寺の掲示板
江田智昭／著
第２弾！諸法無我

その他の各賞より

＊置かれた場所で　咲けないときは　逃げてもいいよ　咲けるところへ
＊本当のものがわからないと　本当でないものを本当にする
＊一人じゃさみしい　二人はわずらわしい
＊磨いても磨いても　光らなかった　でも腕力はついた
＊私の物差しで問うのではなく　私の物差しが問われる

ひとやすみ

第一生命の第34回
サラリーマン川柳コンクール

あるある。わかる～

第１位
会社へは　来るなと上司　行けと妻

第２位
十万円　見る事もなく　妻のもの

第３位
リモートで　便利な言葉“聞こえません！”

第４位　嫁の呼吸　五感で感じろ！　全集中!!!

第５位　じいちゃんに J.Y.Parkの　場所聞かれ

サラリーマン川柳コンクール」の名称変更予定
新しいネーミングと【ベスト10】の発表は５月下旬
様々な情報は↓
https://event.dai-ichi-life.co.jp/company/senryu/index.html

公益社団法人　全国有料老人ホーム協会
第21回 シルバー川柳　（入選20作品から抜粋）

- 「密です」と言われてみたい頭頂部
- 薄味にしたらコロナとわめく祖父
- リード持ち散歩に出たが犬忘れ
- 目の検査「丸」と答えるお爺ちゃん
- じいちゃんが暗証番号暗唱し
- 食卓に俺の席だけアクリル板
- 午後八時酒提供を止める妻
- へそくりは一度仕舞うと出てこない
- ペイペイで払うと後ろ行列に
- どなたですそういうあなたはどなたです

事務局から『お知らせ』

◇「若神組門徒推進連絡協議会研修会」開催のお知らせ

日時：4月23日(土)15時～　場所：善興寺(高岡市中田)　テーマ：「コロナ禍とみ教え」
コロナ禍社会で「み教え」をどのように受け止め、考え、行動に生かしておられますか。講長からの問い掛けです。ぜひご意見をお聞かせください。

◇ 小冊子 ご親教「浄土真宗のみ教え」をいただく の配布について

来る2023（令和5）年、親鸞聖人御誕生850年・立教開宗800年慶讃法要をお迎えするにあたり、ぜひご一読ください。

－お参りのご案内－

◎ 5月講（降誕会）
日時：5月21日(土)午後2時～
場所：光乗寺　高岡市戸出大清水

◎ 6月講
日時：6月13日(月)午後2時～
場所：西照寺　砺波市中野

◎ 特別永代経法要団体バス参拝
日時：7月24日(日)　井波別院
（詳細が決まり次第同行からご案内致します）

+++ あとがき +++

十三日講の広報活動の一環としての「だより」作成に、四苦八苦していますが、羽生結弦サマ これは「報われない努力」でしょうか？　今は「継続は力なり」と信じていたいデス。

M

若神組十三日講 HP

講の再学習に向けて

事務局長　中 嶋 一 雄

私たちの、講の活動方針の一つに「講の再学習」を掲げています。

全国的な講の衰退に歯止めがかからない状態が続いています。

現代社会における価値観・人生観・世界観などが大きく変化している中で、試行錯誤が続きますが、まずは「講の再勉強からはじめては」の思いから、この小冊子シリーズを作成しています。

先人が求め続けられた仏法の精神的支柱に、少しでも近づきたいとの思いです。

みなさまの、ご参考になれば幸いです。

○小冊子シリーズ（リスト）

番号	区　分	タイトル （青字の6冊は、500 円/冊）	副タイトル	○印 全地域
	頒布品	日本仏教宗派の教え	基礎知識	○
	頒布品	私たちのお寺様	般若野荘と若神組	○
	頒布品	私たちのふるさと	荘園成立の時代背景	○
	頒布品	私たちのふるさと	戦乱と大地震と民衆	○
	頒布品	私たちのふるさと	鎌倉幕府の滅亡と戦乱	○
	頒布品	私たちのふるさと	越中の戦乱と一向一揆	○
①	進　呈	「記紀神話」に現れる神々	古事記・日本書紀から	○
②	進　呈	村々のはじまりとお寺さま	5ケ村（若神組）	○
③	進　呈	私たちのふるさと	古代荘園と若神組	○
④	進　呈	私たちのふるさと	「中野村のはじまり」	中野
⑤	進　呈	私たちのふるさと	神様と中野神社	中野
⑥	進　呈	私たちのふるさと	臨済宗の古刹（薬勝寺）	中野
⑦	進　呈	私たちのふるさと	「大田村のはじまり」	太田
⑧	進　呈	私たちのふるさと	真言宗の古刹（千光寺と安居寺）	太田
⑨	進　呈	私たちのふるさと	「柳瀬村のはじまり」	柳瀬
⑩	進　呈	私たちのふるさと	「広大な中條保」	柳瀬
⑪	進　呈	私たちのふるさと	「広大な中條保②」	柳瀬
⑫	進　呈	私たちのふるさと	「南般若村のはじまり」	南般若
⑬	進　呈	私たちのふるさと	「北般若村のはじまり」	北般若
⑭	進　呈	私たちのふるさと	「伊加留伎荘と大溝」	柳瀬
⑮	進　呈	私たちのふるさと	「戦乱と大地震と民衆②」	北般若

茶話会教室　小冊子シリーズのご紹介

若神組十三日講

1

・南都六宗
・平安仏教
・鎌倉新仏教
・禅の渡来と日蓮宗
・日本仏教の変遷

日本人は、山に神を感じ取り、川に神を実感し、海に神を見てきました。
そして、仏教が伝来した時、蘇我氏と物部氏との対立があったのは事実ですが、仏教を排斥することなく、結果的には、神道と仏道とを共生させ、千三百年以上も独特の神仏習合の文化を培ってきました・・・。

2

・お釈迦様との
深いご縁
・古代・中世の
砺波の般若野
・若神組二十一ケ寺
建立の由来

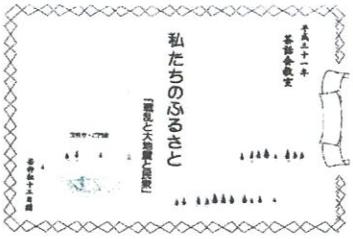
私たちの若神組の二十一ケ寺は、庄川河口の中野から高岡市中田に至る庄川沿い右岸・左岸にあります。
この地は、中世には徳大寺家領の般若野荘と呼ばれる、たいへん広大な荘園があった地域です。
世の安寧と心の安穏を求めて、お寺さまの建立と民衆の職い、ご先祖さまは、いつどこから・・・。
おおいに、タイムスリップしてください。

3

・越国（高志国）
・大仏造立の詔
・越中国司・大伴家持
・伊加留伎庄
・古代・庄園を
潤す大溝

奈良時代の「井山庄」「伊加流伎庄」「石栗庄」このうち、「伊加流伎庄」は、東大寺の高僧・平栄と越中国守として赴任していた大伴家持が、その占定にあたりました。
中世に至り、これら三つの庄園は、全て徳大寺家の般若野荘内となります・・・。

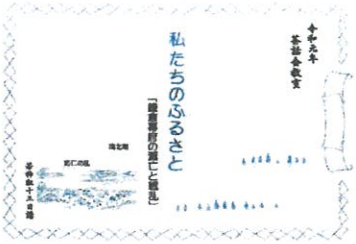
4



・平安から鎌倉時代へ
・争乱の世
・礪波郡・蓑の里
・木舟城下と戦乱
・木舟城の悲哀
・礪波郡の村落

天正十三年(1585)十一月、飛騨・越中を揺るがす大地震が起こりました。
この時、木舟城下は大混乱になり、後に民衆は安住の地を求めて散り散りとなります。宝性寺ご門徒も同様で、そのお家は呉西一帯に広く分布し、現在に繋っています。（宝性寺ご門徒史料から、当時を垣間見ます）

5



・執権政治・北条氏
・後醍醐天皇の
統幕事件
・鎌倉幕府・滅亡
・蓮如上人
・応仁の乱

南北朝時代から、応仁の乱とその後のお話です。
この時代、秋元・光福寺の桃井氏の活躍や南北朝合一後の井波・瑞泉寺の建立、そして応仁の乱を避けて柳瀬に越された万遊寺の祖先にまつわるエピソード、同じく蓮如上人も難を逃れ、朝倉氏の支援を受けて吉崎（福井県）に御坊の建立をされた事などに関する内容です。

6

・室町幕府
・蓮如上人
・北陸の一向一揆
・上杉勢の越中侵攻
・安土桃山時代
・魚津城の悲劇

田屋河原の合戦（旧福野町）や加賀の一向一揆にも見られるように、応仁の乱後、戦乱はさらに地方にもおよび拡大の一途を辿っていました。
又、これに加えて十六世紀からは、上杉・武田らの戦国武将の戦いがはじまり、私たちのふるさとでも般若野・梅檀野の戦いがあります・・・。

（以上、6冊の簡単な説明です）

〇次は、年２回配布している「十三日講だより（第９号）」のご紹介です。